

1) 国内の情勢

【国内の観光動向】

国民の国内宿泊旅行

国民1人あたりの国内宿泊観光旅行回数 1.73 回(H18年度)(対前年度比 2.3%)

国民1人あたりの国内宿泊観光旅行宿泊数 2.77 泊(H18年度)(対前年度比 4.2%)

(単位:回、泊)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1人あたり旅行回数	1.70	1.71	1.77	1.73
1人あたり宿泊数	2.81	2.78	2.89	2.77

国民の海外旅行者数

平成19年の海外旅行者数は、約1,730万人(対前年比 1.3%減)となり、ほぼ横ばいの状況

(単位:万人)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
海外旅行者数	1,330	1,683	1,740	1,753	1,730

平成19年の数値は、国際観光振興機構の報道資料より

【国民の旅行等に関する意識の動向】

今後の生活で力点をおきたい分野	レジャー・余暇生活	36.8%
	所得・収入	29.9%
	食生活	29.5%
	資産・貯蓄	28.4%

レジャー・余暇生活が1位

余暇活動の潜在需要	海外旅行	34.0%
	国内観光旅行	20.4%
	音楽会、コンサートなど	9.5%
	陶芸	8.9%

54.4%が旅行

【国内における観光消費額（訪日外国人旅行含む）】 24.4兆円

（単位：兆円）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
国内の旅行消費額	23.8	24.5	24.4
国民の日帰り旅行	4.9	4.5	4.7
国民の宿泊旅行	16.3	16.6	16.4
国民の海外旅行(国内分)	1.2	1.7	1.7
訪日外国人旅行	1.4	1.6	1.6

【訪日外国人旅行の動向】

- ・平成19年の訪日外国人旅行者数は、対前年比13.8%増の約835万人で過去最高

（単位：万人）

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
旅行者数	521	614	673	733	835

平成19年の数値は、国際観光振興機構の報道資料より

- ・平成19年の国別では、韓国が22.8%増の260万人と高い伸び率を維持し、9年連続で旅行者数がトップである。

< 国別順位 >

（単位：万人）

順位	1	2	3	4	5	6
国名	韓国	台湾	中国	米国	香港	オーストラリア
旅行者数	260	139	94	82	43	22

平成19年の国別データは、国際観光振興機構の報道資料より

〔出典「平成19年版 観光白書」 国土交通省 編〕

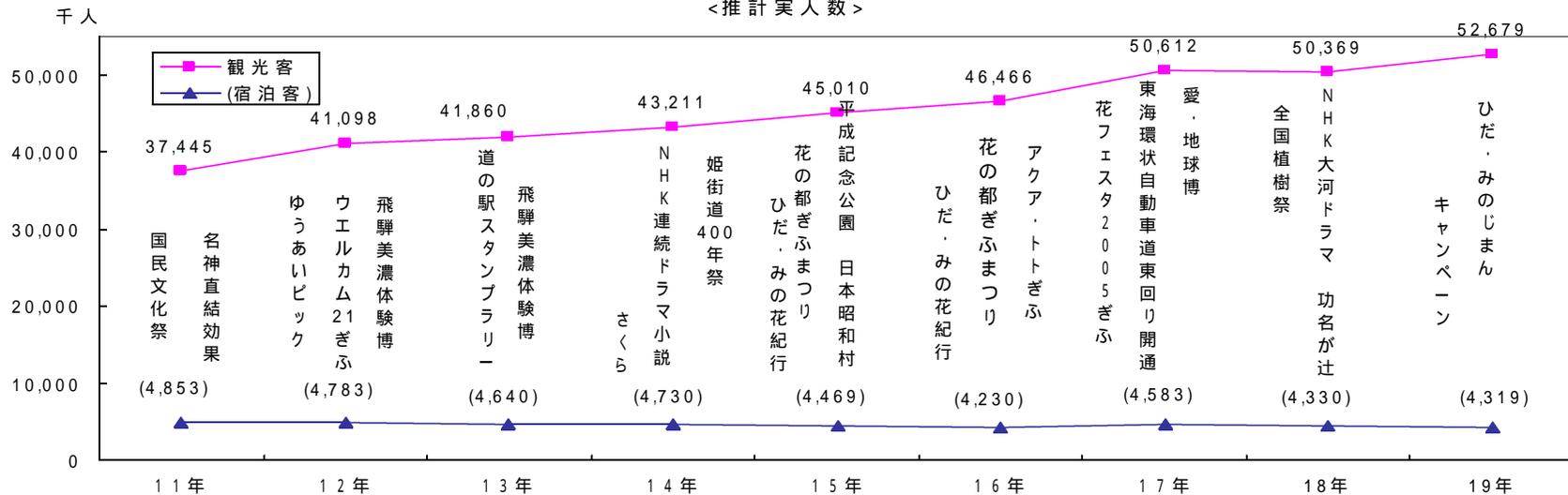
2) 県内の情勢

【県内の観光状況】

観光客数〔推計実人数〕： 5,268 万人 （対前年比 +4.6%）
 日帰り： 4,836 万人 （対前年比 +5.0%）
 宿泊： 432 万人 （対前年比 0.3%）

- ・平成19年の観光客数は、前年に比べ231万人・4.6%増の5,268万人となり、過去最高の入込みとなった。過去5年の推移をみると、4.6%の増加は、万博効果のあった平成17年を除いて最高の伸び率となっている。
- ・平成19年の宿泊客数は、前年に比べ1万人・0.3%減の432万人となり、ほぼ横ばいの状況となった。過去5年の推移をみると、基本的に減少傾向にあるなか、0.3%の減少にとどまっている。

年別観光客数の推移
 <推計実人数>



観光消費額〔推 計〕 : 2,899 億円 (対前年比 +3.2%)
 日帰り : 1,788 億円 (対前年比 +5.2%)
 宿泊 : 1,111 億円 (対前年比 +0.1%)

(単位:億円)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
観光消費額	2,605	2,593	2,862	2,810	2,899
日帰り	1,440	1,497	1,698	1,700	1,788
宿泊	1,165	1,096	1,164	1,110	1,111

外国人旅行者数 20.9 万人 (対前年比 +13.8%)

(単位:万人)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
外国人旅行者数	6.8	10.4	11.4	18.3	20.9

外国人旅行者数は、国際観光振興機構「訪日外客実態調査」「日本の国際観光統計」より推計

平成19年の数値は、国際観光振興機構の報道資料より推計

<国別順位>

(単位:万人)

順位	1	2	3	4	5	6
国名	台湾	中国	米国	韓国	香港	オーストラリア
旅行者数	6.2	2.1	2.0	1.8	1.0	0.7

平成19年の国別データは、国際観光振興機構の報道資料及び「訪日外客実態調査」より推計

- ・平成19年の国別では、台湾が5.8%増の6.2万人と3年連続で旅行者数がトップである。
 また、中国が16.1%増、2.1万人となり、台湾に次ぐ旅行者数となっている。

<外国人旅行者の観光消費額>

(単位:億円、%)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
外国人旅行者の観光消費額	148	169	192	188	194
観光消費額に占める割合	5.7	6.5	6.7	6.7	6.7

国土交通省観光白書における訪日外国人旅行の消費額より推計

〔平成18年岐阜県観光レクリエーション動態調査及び平成19年数値は速報値〕

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づき調査。調査の対象とする観光地点・宿泊施設の選定及び調査・集計を市町村と県とが協同して毎年実施。

3) 課題

課題

- ・現代の旅行者が求める「癒し」「歴史」「風情」などを感じる観光資源を有しているが、知名度の低さから、積極的に行き先として選ばれていない。
- ・ニーズの多様化や岐阜県の特性を踏まえた観光資源の活用が十分になされていない。
- ・インフラの整備に伴い、中部圏内の結接点となった地の利をいかした広域観光を進めることが求められている。



課題の背景

[旅行者の傾向]

- ・団塊世代の大量退職に伴う余暇活動の拡大のなか、団体旅行から個人、あるいはグループ旅行へ旅行形態が変化している。
- ・従来型の「見る」観光から、「体験する」「学ぶ」観光への関心の高まりなど、画一的な周遊型観光から個人の関心やこだわりを出発点とする目的型観光へと、旅行者のニーズは多様化している。

団体旅行から個人旅行

ニーズの多様化

[岐阜県の観光資源]

- ・飛山濃水の美しい自然、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技に培われた地場産品、観光と地場産業を融合させた産業観光など、全国に誇れる「観光資源」を有している。
- ・東海環状自動車道東回り区間の全線開通、JR高山本線の全面復旧、中部縦貫自動車道の高山までの延伸、また本年中に東海北陸自動車道が全線開通予定であり、岐阜県を中心とした太平洋側と日本海側のアクセスが飛躍的に向上する。

アクセスの向上

ニーズの多様化に対応できる
豊富な観光資源

マイナス評価

- ・行ってみたい県 34位
岐阜県への観光経験 18位

実際に訪れたことのある経験に比べ、
行ってみたいと思われていない

行ってみたい上位5県
沖縄、長崎、鹿児島、福岡、奈良
〔岐阜県地域ブランド調査 2005年〕

- ・どこにあるか知られていない県
岐阜県はワースト6位
ワースト1位は島根県
〔NHK ワースト脱出大作戦〕

プラス評価

- ・美しい日本の歴史的風土100選選出数全国1位（8地域）
岐阜市…城下町と中山道の宿場町
高山市…城下町高山の街並み
飛騨市…城下町飛騨古川の街並み
郡上市…城下町郡上八幡の街並み
各務原市…名勝木曾川、日本ライン
中津川市…中山道の宿場町 馬籠宿
美濃市…うだつの上がる歴史的街並み
恵那市…城下町岩村の街並み
長野県 6地域 神奈川県、福井県 5地域
〔(財)古都保存財団〕

- ・観光力ランキング 岐阜県 7位
観光の目的となる観光資源と宿泊施設の規模、観光ガイドなど観光産業の規模を表す項目を集計対象としてランキング。
各県の観光産業の潜在能力を示したものの。
〔週刊ダイヤモンド 2007.07.28〕

- ・懐かしい風景が残る街ベスト77
2位 白川郷…世界に誇る合掌造りの里
5位 高山…飛騨の小京都
11位 郡上八幡…250年の知恵が息づく水の都
15位 美濃市…うだつの上がる街並み
〔テレビ東京「出沒！アド街ック天国」〕

- ・仏ミシュランによる「飛騨高山」の三ツ星格付
三ツ星（必ず訪れるべき場所）
東京、京都、奈良、日光、富士山、姫路城、巖島神社、飛騨高山